

政策の基本	人づくり
人づくりの視点	人を活かす

1 プロジェクトの概要

目 標	○ 自らの個性や能力を活かし、とちぎづくりの担い手として活躍できるよう、若者や大人の社会参加を促進します。 ○ 長年培ってきた知恵や能力を活かし、とちぎづくりに参画できるよう、シルバー世代の社会参加を促進します。
取組の方向	☆多様な能力を活かす（若者世代～大人世代） ☆知恵と能力を活かす（シルバー世代）

2 成果指標等の状況

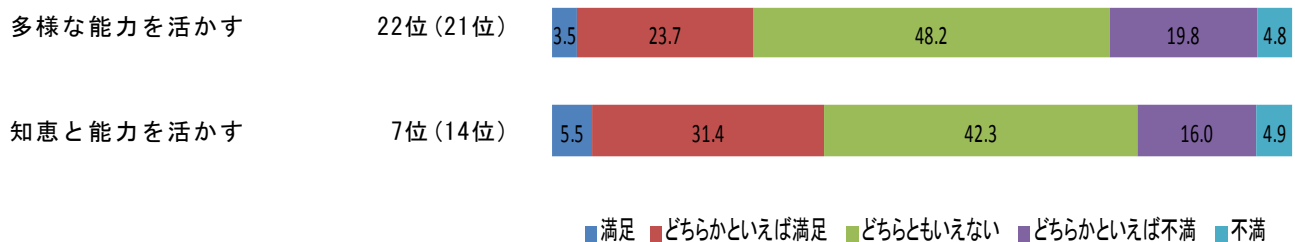
成果指標	基準 ・全国平均 ・全国順位	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5	H 2 6	目標 H 2 7
①社会貢献活動参加率	18.0% (H22)	18.0%	32.4%				県民2人に1人以上の参加を目指す
出典：県政世論調査	達成見込	—	☀️				

（注）目標達成見込の判断 ☀️：概ね順調 🤖：やや遅れている 🌧️：遅れている

【成果指標の分析】

- ① 東日本大震災を契機として、社会貢献活動の大切さが再認識されたことなどによって、何らかのボランティア活動に参加した方が増加し、参加率が上昇しました。

【県民満足度調査結果】



※順位は、「満足」及び「どちらかといえば満足」と回答した割合をもとに順位付けした。（ ）内は昨年度の順位。

3 主な取組成果と課題

【成 果】
☆多様な能力を活かす（若者世代～大人世代）
○社会貢献活動への理解促進による社会参加促進
≪主な取組≫ ① NPO、ボランティア等の社会貢献活動への参加促進 ボランティアサポート事業として、公募で登録したボランティア団体が実施する県管理施設

(道路、河川、公園)の維持管理活動を市町とともに支援したことにより、前年に比べて12団体多い、271団体がボランティア活動に参加しました。
○マッチング機能強化 ○県民協働の仕組みづくり
《主な取組》 ①地域づくりや様々な課題解決に協働で取り組むための出会いと協議の場づくり 新たな“公”の担い手同士が、対等な関係とともに課題解決に向けて対応策を「検討・協議」し、事業企画を行い、協働の実践につなげる仕組みである「とちぎ地域力創造プラットフォーム」を構築しました。 県政の課題に対応する「テーマ別プラットフォーム」については、5つのテーマについて、市や町の地域課題に対応する「地域版プラットフォーム」については、8市町13テーマについて課題解決に向けた協議などを実施しました。
☆知恵と能力を活かす（シルバー世代）
○社会参加の仕組みづくりや交流機会の確保
《主な取組》 ①シルバー大学校等における社会参加のきっかけづくりと人材の養成 高齢者社会参加促進会議の立ち上げ（5回開催）、シルバー大学校南校でボランティア活動を行っている「ネットワークみなみ」の活動紹介、シルバー大生と市町との間のマッチングの実施等により、シルバー大生・OBの社会参加を促進し、地域での具体的な活動に結びつけました。 ②技能等の発表と伝承の場づくり 経験豊かな高齢者が、第二の人生の一環としてそれぞれの知識や技術を活かして取り組んでいる地域文化伝承団の活動を支援（6団体）し、地域文化の次世代への伝承や世代間交流の促進を図りました。
○就労支援の充実
《主な取組》 ①就労相談や就職情報の提供など、多様な働き方への支援 県シルバー人材センター連合会を通じた普及啓発を行いました。 (H23: 会員数 11,112人 (H22比▲322人)、受注件数 64,751件 (H22比+407件)、契約金額 5,097百万円 (H22比▲65百万円))
【課 題】
☆多様な能力を活かす（若者世代～大人世代）
○県民協働の仕組みづくり
＜とちぎ地域力創造プラットフォームによる協働の推進＞ NPO、企業、地域団体、大学などによる新たな“公”の担い手が地域づくりや様々な課題解決に協働で取り組むための仕組みである「とちぎ地域力創造プラットフォーム」の全県における活用、定着が課題となっています。 このため、特に、市や町における「地域版プラットフォーム事業」を活用した市町の取組を促進していく必要があります。
☆知恵と能力を活かす（シルバー世代）
○社会参加の仕組みづくりや交流機会の確保
＜高齢者の社会参加促進＞ 高齢者が長年培ってきた知恵や能力が地域の様々な課題解決に十分活用されていません。このため、地域や職域において高齢者がより生きがいを持って社会参加できるような仕組みづくりを市町と連携して進める必要があります。